

SDGsの達成へ向けて

佐賀市立勸興小学校 六年 廣重 佳

ぼくがSDGsに興味を持ったきっかけは地元の道の駅で買ったクッキーだった。一袋百円位のそのクッキーは、簡易な包装で形も不ぞろいだったけれど、作りでおいしく、ぼくはそのクッキーのファンになった。その後ぼくは、そのクッキーはある障がい者施設で作られていると知った。しゅう労支援所という所があって、障がい者の自立を手助けしている、ということも知った。ぼくは世の中には、なんて素晴らしい仕組みがあるのだろう、と感動した。そして、ぼくがそのクッキーを買うことも手助けになると分かり、とてもうれしかった。このような買い物「エシカル消費」というらしい。自分のことだけでなく、人や社会、環境のことを考えて行う消費行動のことだ。ちょっとした行動を見直すことで、持続可能な社会の実現につながる。それが分かった時からSDGsはぼくにとつ

て身近なものとなった。SDGsの17の目標の中でぼくが最も興味があるのは、16番の「平和と公正をすべての人に」だ。その目標に取り組むため、ぼくはまず弁護士になろうと思う。「すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する」

そのためには、司法について詳しく理解しなければならぬと考えたからだ。そしてすべての人に公正な制度を構築するにはどうすればよいだろうか。ぼくは、ぼくが感動した障がい者のためのしゅう労支援所のような仕組みを、ぼくも考えて作りたい。弁護士として働きながら、その仕組みを考えて、その考えがまとまったら、次にぼくは国会議員に立候補する。自分が考えた仕組みを法案として国会に提出し、可決されるように努力する。

何年かかるか分からないが、それが実現したら、国会議員をやめて学校を設立したい。松下村塾のような、勉強だけでなく、生き方も学べる学校だ。そこでぼくは、ぼくが達成できなかったSDGsの残りの目標を達成してくれる優秀な人材を育てたいと思う。ちなみにぼくは、この夢を持つ前はもともと学校の先生になりたいと思っていたので、その夢もかなえられて一石二鳥である。

しかし、弁護士や国会議員になるのももちろん簡単なことではない。司法試験に合格するためにたくさん勉強しなければならぬし、法案を作るには世の中のことをよく知る必要がある。選挙に出るためには説得力のあるスピーチも大切だ。そのためぼくは、六年生になってから毎日新聞を読んでいる。ずっと苦手だった作文にも、通信講座を受講して毎月一つの以上の課題作文に取り組み、少しずつ書けるようになってきた。途方もなく遠い夢だけれど、できることからやってみようと思う。小さな努力の積み重ねが大きく未来を変えてゆく事を信じて。

廣重佳 のライフプラン

将来なにになりたいか？ 弁護士、国会議員、校長

その理由： SDGsを達成したいから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	12(小6)	中学受験に向けて勉強をがんばる。	教材費
2023年	13(中1)	学年で1~3位の成績をとる	、
2024年	14(中2)	、	、
2025年	15(中3)	、	、
2026年	16(高1)	高校に入る。高校でし、かり勉強する。	受験費・学費
2027年	17(高2)	、	学費
2028年	18(高3)	成人になり、選挙権を持つ。政策をまじりと聞いて投票する。	、
2029年	19(大1)	東大の法学部に入る。法律を学ぶ	生活費・入学費 学費
2030年	20(大2)	、	生活費学費
2031年	21(大3)	、	、
2032年	22(大4)	、	、
2033年	23	司法試験に合格	教材費
2034年	24	弁護士として活躍する。	生活費
2035年	25	、	、
2036年	26	衆議員に立候補する。	選挙費用
2037年	27	法案を提出する	
2065年	55	SDGs目標16を達成する。法案を可決させ、後引退し、後進を育てる故、学校を作る権利を得る。	学校設立費

※最後の行は、何歳の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！